


所 属	現代社会学部 現代社会学科(スポーツ健康福祉専攻)		
主な担当科目	運動生理学		
	氏 名	岡野 亮介	
	フリガナ	オカノ リョウスケ	
	職 位	教授	
	学 位 等	体育学修士 博士(学術)	
研究内容・社会業績等			
1. 踵骨強度の発育特性と男女差 2. 自律神経緊張状態の季節変動 3. 顔面冷却時の自律神経緊張状態の変動 4. 踵部に対する温度負荷の音響的骨評価値に及ぼす影響 5. 筋力発揮における静脈血酸素飽和度へ及ぼす影響 6. 各種スポーツ選手における体力特性 7. ロコモテストの改善に関する研究 8. 小学校から大学までの運動習慣(正課体育授業を除く)が大学生の各種体力に及ぼす影響			
論文・書籍・資格等			
1 男性スポーツ選手における踵骨強度の特徴および形態・基礎体力との関連性.臨床スポーツ医学,(2003),20(5),591-597 2. The effects of physical training on electrocardiographic response provoked by apneic facial immersion. Hagi International University Review,(200),5(1),61-68 3. Time,month,and year-related variation of electrocardiographic responses provoked by apneic facial immersion.Hagi International University Review,(2004),5(2),1-12 4. The electrocardiographic responses provoked by apneic facial immersion in hot water.Hagi International University Review,(2004),5(2),13-18 5. 踵骨強度の発育特性と男女差.学校保健研究,(2004),46(1),59-66 6. 踵骨強度の発育特性と男女差-＜第2報＞運動習慣の関与.学校保健研究,(2006),48(2),175-182 7. 小学生における形態、体脂肪率および生活履歴と踵骨強度の関連性.発育発達研究,(2006),31,1-7 8. 身体トレーニングが高齢者の体力、血中成分および心理面へ及ぼす効果.臨床スポーツ医学,(2007),24(1),105-116 9. 小学生における踵骨強度の10年間隔での横断的比較、1年間隔の縦断的比較および基礎体力との関連性.保険の科学,(2008)、50(7)、489-494 10. Relationship between serum leptin and calcaneus bone assessment-related indices in females.Bulletin of Yamaguchi University Of Human Welfare and Culture,(2013),8,1-7 11. Relationship between shapes,percentage of body fat,living history and calcaneus bone strength in female university students.Bulletin of Yamaguchi University of Human Welfare and Culture,(2013),8,9-16 12. 音響的骨評価値の身体発育に対する縦断的観察-小学校1年生時から高等学校3年生まで2カ月毎に測定した男児1例について,Osteoporosis Jpn.,(2013),21(4),73-79 13. 自転車エルゴメーターによる最大無酸素性パワーと体重や脚筋力等の関係及び設定負荷と脚筋力との関係、至誠館大学研究紀要,(2015),1,73-81 14. 小学校から大学までの運動習慣が大学生の基礎体力に及ぼす影響について.至誠館大学研究紀要,(2017),4,47-52 15. 踵骨強度の発育状態に対する縦断的観察:小学校1年生から大学2年生までを観察した男子一例について,発育発達研究,(2017),66,63-70 16. アスリートにおける皮下脂肪厚法とインピーダンス法で求めた体脂肪率の比較.至誠館大学研究紀要,(2019)6,69-76 <資格> 1999年11月 実用英語技能検定準1級取得 2020年1月 ドイツ語技能検定3級取得			
学生へのメッセージ			
<p>身体活動やスポーツは健康の保持増進および体力の向上のために大きな役割を果たします。また、社会性や規律心の育成のためにもその経験は貴重です。しかし、一方でスポーツ活動によって様々な事故が起きているのも事実で、肝心なのは性、年齢、健康状態および体力に応じた安全で効果の高い身体運動の実施なのです。これを実行しようと思えば、身体運動を行っている時の心臓や筋肉の働きなどを深く知っておかねばなりません。また、身体トレーニングを行った結果どのような効果が心身に生まれるかを科学的に理解しておく必要があります。私の授業ではこれらのことを解説したいと思っています。</p>			
出前講義等			
・強い骨を作るためにやるべきこと 生活習慣(特に運動習慣や食習慣)と骨密度(あるいは骨強度)との関連性及び強い骨づくりの方法をやさしく解説します。 ・浸水と不整脈の発現について 身体が水に浸かる(特に全身浸水)とダイビングリフレックスによって、心拍数が低下します。また、時と場合によっては重篤な不整脈が発現する場合があります。本講義では色々な条件下で浸水した場合の心臓反応の特徴を説明し、特に水中事故との関連性についても言及します。			